

令和8年3月

氷見市地域おこし協力隊活動報告

氷見市地域おこし協力隊

三上 啓

自己紹介



名前 三上 啓

出身地 富山県高岡市

2020年
脱サラ

2021年
農泊をしながら九州縦断
農業に興味を抱く

2022年4月
地域おこし協力隊になる
有機農業が活発&子育て支援が充実そんな
氷見に魅力を感じる

2022年11月
出産（1年間の産休・育休）

2023年10月
協力隊として再スタート

ミッション

- 1 **農業の担い手**として栽培技術、農機具の操作技術、資格を身に着ける。
- 2 布勢地区の方々と協力し風土に合った**特産品作り**で六次産業化を目指す。
- 3 **放置竹林を整備**すると共に、竹の新たな活用方法を考える。

これまでの活動 農業分野

にんにく栽培の拡大

収量 2022年150kg 2025年270kg



商品開発

黒にんにくチョコレート 神代温泉水を使用した黒にんにく



農業体験の受け入れ



朝市の開催・出店 子供向け収穫体験の実施



これまでの活動 林業分野

ネットワーク設立 ひみ竹林ネットワーク Team Viva Bamboo



各種イベント開催 (33回開催/約600人参加)



林内作業道の整備 バックホー操作技術の習得



ひみ食彩祭りでメンマ販売 地元ラーメン店とコラボ



気づき

- 自分が動くほど、活動の広がりが生まれていく
地域課題への取り組みが、地域の「やりたい」を実現する動きへ広がっていった
- 地域には「頼られる」ことを待っている人もいる
「暇やから、手伝うことあれば言ってね」と声をかけてもらうことも多く、
“頼ること”も協力隊の役割だと気づいた
- 協力“員”ではなく、多くの関わりの中で成り立つ
協力“隊”だと実感
地域・市役所・保育園・協力隊の仲間・家族に支えられた日々

これからの展望① — 食・体験の展開 —

「メンマの商品化」

氷見産メンマの商品開発を行い、
整備や竹の活用の輪を広げる



「筍で繋がる国際交流」

筍を使ったアジア料理をきっかけに、
氷見に住む外国人との交流を生み出す



これからの展望② — 空間の活用 —

「人が集まる竹林づくり」

地域の人と一緒に竹林を整備し、子供も大人も自由に過ごせる地域に根付く「集いの場」を育てていきたい。



「竹をまるごと味わう宿づくり」

空き家を活用し、竹を五感で味わう体験型の宿をつくり、地域外の人が訪れ、地域の人と出会う交流のきっかけを生み出していきたい。



竹林を地域資源として活かすために

竹林情報の整理と可視化

- 竹林の場所
- 所有者
- 面積
- 竹の種類
- 竹林の状態や利用可能性



行政や関係団体と連携しながら竹林マップづくりを進めていきたい